

同じ殻に閉じこもってちゃダメなんです

2004年度 博士前期課程修了 服部 照義さん

Q. どうして電気電子工学科から総合学術研究科へ進学したのですか？

僕がそもそも名城大学へ入ったのは、青色発光ダイオードの赤崎先生の研究室に入りたかったからなんです。でも、成績上位でないと無理だとわかった。僕はあまり勉強が好きじゃなかったんで(笑)

当時、燃料電池の勉強をしていたんですが、バイオマスのNPOに関わる機会があって、新エネルギーに興味を持ったんですね。そのエネルギーとして植物にターゲットを絞ったときに、高倍先生と出会ったんです。で、「これだ！」と。

家族には「総合学術研究科に行くよ」って、それだけ。僕は基本的に「我が道を行く」なんです(笑)

Q. 実際、授業にはついて行けましたか？

「ああ不安だ」って考えても仕方がないじゃないですか。そんな暇があったら、もっと建設的なことを考えた方が絶対いい。

電電から来たデメリットや困ることはたくさんありましたよ。普通についていけないし、めちゃくちゃ大変！先生の言ってることも全然わからない(笑)

でも、皆と同じように血肉になるレベルまで消化することよりも、「そういうことがあるんだ」と他の視点から見るができるようになる方が大事なのかな、と考えたんです。

まあ、みんなから教えてもらいながら何とかやってこられました。授業はわからないけど、つまらなくはなかったんです。それなりにやりましたよ(笑)



Q. 慣れない研究でとまどったのでは？

僕は塩害に強い植物を研究していました。遺伝子のことをいろいろと教わりながら。田中先生と一緒に、寒天培地に生えたカビと格闘したのは印象に残っていますね。

何でも新鮮だったから、その意味では楽しかったですよ。でも、研究室のあの空気に耐えられなくなると、タワー75の院生自習室によく走って行きました(笑)

研究室はいろいろな国籍の人が入り交じっていましたね。バングラデシュ、インド、中国、タイ・・・あの頃は一番多かったんじゃないかな。

普段はみんな、自分のテーブルで黙々とやっているんです。でも、たまに雑談したり。母国のお菓子を作って持ってきてくれたことともありましたね。砂糖をガチガチに固めたインドのお菓子とか。おいしかったな。



Q. 今のお仕事は大学院の研究内容と関係ないですよね。

大学院はあくまでも知的探究心だけの話。最終的にはコンサルティングの会社を立ち上げたいなと思っているんです。

次のステップとしては、海外の部署に行きたい。僕の年齢だと、向こうに行くとなると責任あるポストに就かされる。会社全体をマネジメントする力はまだないんで、今後はそれを鍛えていこうかな、と。

全体を見るとという点では総合学術で学んだことが活かされると思うんですよ。



Setsubun ?



Q. 異業種の技術にも目を向けながら仕事をすると、どんないいことが？



世の中の最先端技術というのは、一から開発するんじゃなく、既にある技術を併せて作り出すんです。

だから、視野の広さは絶対に必要なんです。その点、自分の専門だけを深くやっていくと、やっぱり狭いですよね。

Q. 自信たっぷりですね。

言いたいこと言ってますけど、これでも結果は残してるんで(笑)

Q. 最後に後輩へ一言。

みんなが考えてることから、まずは逸脱すること。これが大事ですね。

今の状況に疑問を持っている人、もうちょっといろいろ見てみたいなと思っている人は、ぜひ総合学術にくるべきです。

同じ殻に閉じこもってちゃダメなんです！！

僕みたいに変わった人間でも受け入れてくれるだけの度量が、総合学術研究科にはありますよ。

